



医療法人創和会 しげい病院・(重井医学研究所附属病院)

理事長・院長 重井 文博

1. 病院紹介

当院は昭和43年、岡山県下で最も早くに人工透析を開始し、透析者数310名と県内で二番目に多い施設です。同じ法人内の「重井医学研究所附属病院(198床)」は8km離れた岡山市に在り、透析者数350名です。モノクロナール抗体作成による腎臓病の基礎研究を主とした「重井医学研究所」があります。両院とも、重急性期から在宅までの地域包括ケアと腎・透析が二本の柱です。また法人グループ内に「重井薬用植物園」と「倉敷昆虫館」があり、自然保護活動に積極的に参加しています。

倉敷市の人口は47万人。中国地方では広島市、岡山市について第3位です。街中心部の「美観地区」は川沿いに白壁の町並みと大原美術館の観光地で、当院は地区から徒歩10分です。

当院は256床6病棟(7:1一般43床/回復期リハ94床/医療療養54床/障害者施設等65床)で、腎・透析とリハビリのケアミックス体制です。ゆえにPT37名 OT35名 ST11名のセラピストがいます。近隣の高機能急性期病院とのface to face連携で、役割を明確にした地域完結型医療を展開しています。したがって入院の7割が急性期病院からの紹介と、大きな割合を占めます。

2. 透析患者の回復期リハ病棟が特徴



当院の特徴は、透析チームとリハチームが一体となった透析患者のための回復期リハ病棟の存在です。発症後2カ月以内の脳血管障害・脊髄損傷、大腿骨骨折、下肢切断、肺炎後・術後廃用症候群という限定で受け入れ、疾患により3カ月または5カ月(6カ月)間と決められた期限内で退院、社会復帰を目指す他職種チーム医療が制度上で規定されています。当院では管理栄養士・薬剤師・介護福祉士・歯科衛生士・臨床心理士らも加わって、包括的リハを提供しています。

日経ヘルスケア14年12月号の記事『競争激化!回復期リハビリ病棟』の中で、透析者を積極的に受け入れる取り組みを紹介されました。一病棟45名中15名前後が透析者で、その内半数が他施設での通院透析であった患者です。二次医療圏を超えての紹介もあります。集中的リハの結果、その9割が元の通院施設に戻れています。言うまでもなく、透析者にとっての通院困難は暮し慣れた自宅を離れざるを得ないことを意味し、その点からリハビリ



医療法人創和会
しげい病院・(重井医学研究所附属病院)
〒710-0051 岡山県倉敷市幸町 2-30
URL: <http://www.shigei.or.jp/shigei/>

の役割は大きいと実感しています。しかしながら同病棟では3年前に透析行為は出来高となったものの、療養病棟での慢性維持透析管理加算に該当する加算は無く、様々な条件から利益面ではデメリットがあり、施設基準のアウトカム指標もやや困難です。

3. その他の包括的リハ

透析中のEMS治療、CKDチーム外来でPT(心臓リハ指導士)・健康運動指導士による運動指導、訪問リハビリで生活の場での機能改善や環境調整を図って通院困難を打開、臨床心理士によるサイコネフロロジー心のリハ、透析NSTや持ち帰り治療食サービスなどがあります。



4. 第6回学術集会 IN 岡山

前大会に見劣りせぬ様にごんばります。来年3月どうぞ岡山へおいでください。

